
断頭台

梅飴ばいう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
断頭台

【Nコード】
N8853G

【作者名】
梅飴ばいっ

【あらすじ】
あなたは、自分の得る自由について考えたことはありますか。たぶん、こんな感じでしょう。

刃が、また落とされた。

あらぬほどの血が噴出し、あの屈強なライオン男が息絶えた。それを囲む俺達は、自由へのカウントダウンを高らかに始める。

あんたも見ただろう？

あのライオン男の悔しそうな顔。この世のすべてを恨み尽くして、結局最後は自分だけを恨んでいたって気付いたって顔だぜ、あれは。次の処刑者は曲がり角にあるパン屋のおばさんだ。翼を携えた白い悪魔がおばさんを引っ捕らえて、断頭台に首を固定。

後は一瞬。

気持ちのいいくらいの音を出しておばさんの首がごろり、と切り離されて落ちる。白い悪魔がその首を持ち上げ、俺達に見せ付ける。俺達は大声をあげてそいつに応えてやった。また一步、自由に近付いたんだ。

さあ、白い悪魔が次の処刑者を選び始めたぞ。

あのルビーのように輝く赤い瞳がこの処刑に相応しい罪人を選ぶのさ。

お、どうやら見つけたらしいぞ。真っ直ぐこっちに向かってくる。

悪魔のフォークが処刑者を指す。

そのフォークの先にはあんたの姿。

どうやらあんたの番みたいだな。

行ってこいよ。ちゃんと死に様見てやるから。

ほらほら、悪魔さんがあんたの両脇を掴んであの断頭台へ連れて行くぜ。ちゃんとこの光景を目に焼き付けておけよ。

って、あんたはもう首を固定されちゃってるのか。

どうだ？

首のあたりに冷たい木の感触がするだろう？

首冷やすと風邪になるんだっけ。困るよな。今度のやつは焼ける

ぐらい熱いのがいいよな。

それでもって上を見てみるよ。でっかい鉄の塊だろ。あれがあんたの首をぶった切るんだ。大丈夫、痛くない。痛みを感じる前にぽっくり逝っちまうよ。

さあ、いよいよだぜ。

白い悪魔が天に自由を咆え、刃を落とす。

ごとり、首が落ちる。

ほら、あっさり死ねただろ。

あんたの首が悪魔に捕まれ、まるで結婚式で言うブーケみたいに俺達に投げられる。血をばら撒きながら飛ぶあんたの首はなかなか滑稽だよ。

その首は弧を描き、そして俺の手元にすっぱり収まった。

やあ、また会ったな。

さっきまで赤かったのに今は真っ青じゃないか。やっぱ怖かったのかな。

じーっと2つのルビーが俺を見てる。

おいおい、どうしてくれるんだよ。

あんたをキャッチしたから次は俺が処刑者になっちまったじゃないか。

白い悪魔が俺を捕まえ、あの断頭台へ連れていく。

まあ、これも仕方の無いこと。

なんたってこれは、俺達の為の、自由への儀式なんだからな。

刃が、また落とされた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8853g/>

断頭台

2010年10月27日04時06分発行